

# THANKS

(VOL. 270)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：2019年12月1日  
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング  
連絡先：〒359-0043  
埼玉県所沢市弥生町 1792-10  
TEL:04-2936-6149  
E-MAIL : [info@thanksmind.co.jp](mailto:info@thanksmind.co.jp)  
<http://www.thanksmind.co.jp>

## 特集

### 「問題解決の基本⑩」・・・ロジックツリーの基本原則と作成のコツ②

本誌では、「問題解決の基本」について特集しています。  
今回で、この特集も最後です。  
前回に引き続き、ロジックツリーを作成する際の基本的な原則と作り方のコツを説明します。  
なお、これまでの本誌のバックナンバーは、以下のサイトでご覧になれます。  
<http://www.thanksmind.co.jp/newsletter.htm>

#### 1. ロジックツリーの基本原則・・・前回の復習

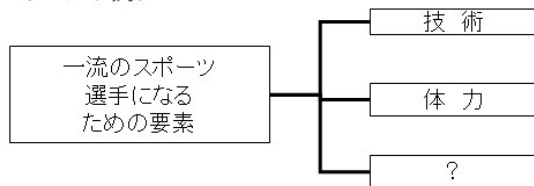
##### 原則1：MECE（ミッシー）

「MECE」とは、「Mutually Exclusive & COLLECTIVELY Exhaustive」の頭文字をとったもので、「モレなくダブリなく」という意味です。

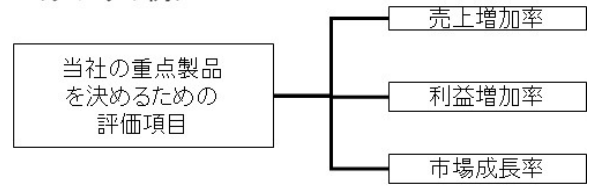
(1) 枝分かれに重要な要素のモレが無いこと

(2) 枝分かれの要素にダブリが無いこと

<モレの例>

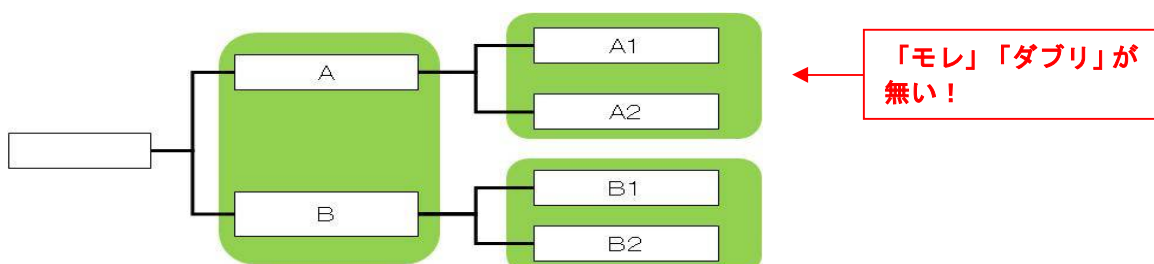


<ダブリの例>



「モレ」があると、重要な要素を見過ごすことになり、「ダブリ」があると、偏った見方をしてしまいます。

ロジックツリーを作成する場合は、まずは、つながっている枝の中で「モレ」と「ダブリ」が無いように留意しましょう。



## MECE (ミッシー) にするためのコツ

### コツ1: 「足し算」「掛け算」で考える

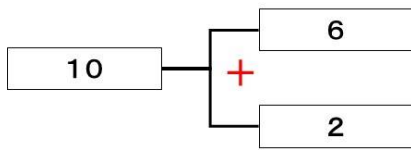
#### <足し算型>

売上高 = 現製品売上高 + 新製品売上高  
チーム力 = Aさんの力 + Bさんの力 + Cさんの力

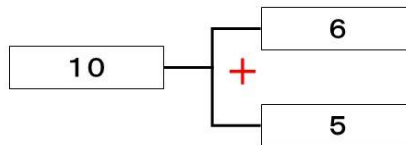
#### <掛け算型>

売上高 = 数量 × 単価  
チーム力 = 個人のカ × チームワーク

「足し算型」にしても「掛け算型」にしても、上位階層と下位階層が合っていなければなりません。



モレがある!



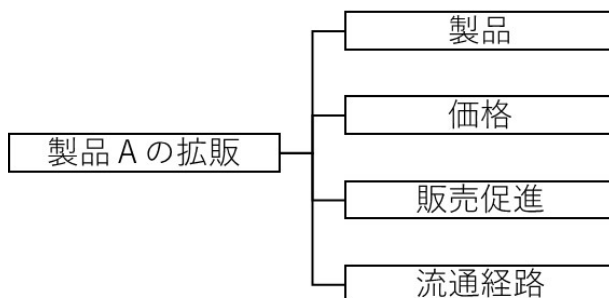
ダブリがある!

-----ここから新しい話 -----

### コツ2: 「フレームワーク」で考える

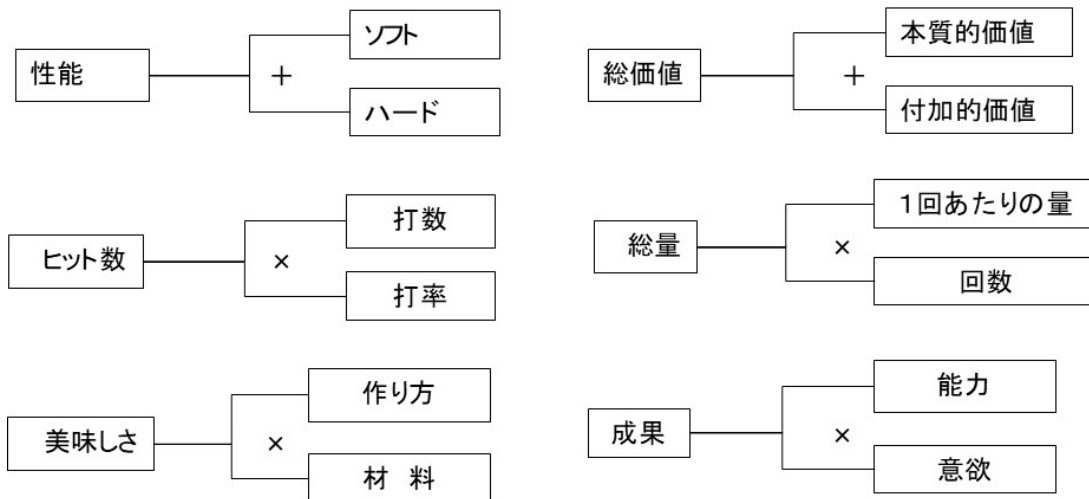
「フレームワーク」とは、ビジネスの中で一般化されている「枠組み」のことを言います。枠組みをそのまま、階層の項目にすることにより、「モレ」「ダブリ」を回避します。具体的なフレームワークには、以下のようなものがあります。

- マーケティングの4P  
→ 製品 (Product)、価格 (Price)、販売促進 (Promotion)、流通経路 (Place)
- 事業分析の3C  
→ 自社 (Company)、顧客 (Customer)、競争相手 (Competitor)
- 職場改善の5S  
→ 整理、整頓、清掃、清潔、躰



### コツ3：「対」で考える

「対」というのは「相棒」のようなもの。「片方がこれならば、もう片方は必ずこれ！」という関係のものです。例えば、以下の通りです。



私は、コツの中で、この「対」を一番重視しています。コンサルティングの中では、いつも上記のような「対」を頭に置いておいて、それを応用します。

例えば、お客様から「注文がとれなくて困っている」と言われたら、上記の「ヒット数」を応用して、「受注件数」＝「提案件数」×「受注率」で考えます。

受注件数を増やすことは、ヒット数を増やすことと同じ。これまでよりも数多くの提案を行うようにするか、もしくは、受注できる確率を増やすか、どちらかしかありません。

また、「人材が育たない」というのは、「美味しさ」を応用します。

「優れた人材」＝「育て方」×「素養」。採用の際の「素養」の見極めを強化するか、「育て方」を変えるかでしょう。

### 結局は慣れること

ということで、3つのコツについて説明してきましたが、最も大事なことは、「とにかく書いて慣れること」です。

私がコンサルタントになりたての頃、上司から、「ロジックツリーノート」を作るように指示されました。

「HOWツリー」「WHYツリー」「WHATツリー」。

毎日、毎日、ひたすらノートに書きました。

大学ノート1冊が書き終わろうとする頃には、もう、すっかり慣れていましたね。

物事を考える時に、自然と、頭が枝分かれになっていました。

今、思い返せば、すごく良い「訓練」でした。

私は、ロジカルシンキングの研修をするたびに、いつも、この「訓練」を紹介します。

某大手企業での研修のこと。

その研修は、4回シリーズで、2回目以降、各回の冒頭で、前回の講義の内容について、必ず「テスト」を実施しました。

そして、ある回のテスト問題が、「ロジックツリーの作成」でした。

前回の研修の中で実施した時のアウトプットは、ハッキリ言って散々の出来。講義の中で、MECEのコツについて話したにもかかわらず、「モレなくダブリなく」に全然なっていませんでした。

しかし、翌月のテストで、20名の受講生の中の2名が「満点」をとりました。それは、私から見て、どこも修正する箇所が無いというレベル。

「なぜ、1ヵ月でこれほど進歩したのか？」

満点をとった二人に話を聞いたところ、二人とも同じことを言いました。

「伊藤さんに言われた通り、ロジックツリーノートを作ってみました」と。

実際にノートを見せてもらったら、それぞれ100個くらい書いてありました。

「やっぱり慣れですね・・・」

二人の感想です。

## 原則2：整合性

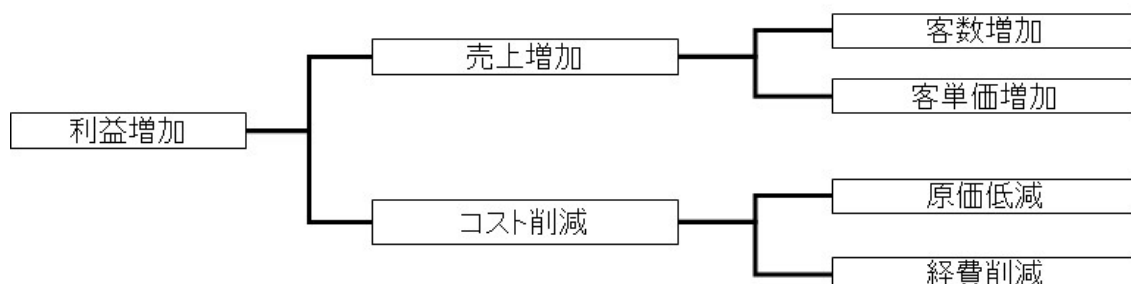
2つ目の原則が「整合性」です。

「HOWツリー」だったら、左から右に「どうする？」「どうする？」「どうする？」。

「WHYツリー」だったら、同じく、左から右に「なぜ？」「なぜ？」「なぜ？」でつながっていなければなりません。

例えば、以下のツリー。

「利益を増加させるためには、売上を増やすこと」「売上を増やすためには、客数を増やすこと」。「HOWツリー」としても「WHYツリー」としても、問題なくつながっていますよね。



それでは、以下はいかがでしょうか？



「政策が悪い」ことの原因が、「施設自体が少ない」こと？

ちょっとおかしいですね。

むしろ、「施設が少ない」ことの原因が、「政策が悪い」ということでしょう。

原因（右）と結果（左）が逆転しています。

ロジックツリーを作成する際は、枝の中のMECEだけを意識するのではなく、上位階層と下位階層が正しくつながっているかどうかを確認してください。